

2023.02.16.木曜礼拝 私の罪がもたらすもの 哀歌1

JD ファラグ牧師

共に祈りませんか？ 天のお父さま、あなたを礼拝します。主よ、あなただけが礼拝にふさわしく私たちの賛美にふさわしいお方です。主よ、私たちにこのような場所を祝福して下さり、私たちが集まり、互いに交わり、主よ、あなたに向かって賛美することができることを感謝します。主よ、私たちがここに来て、あなたの御言葉の教えの下に座ることができることを感謝します。私たちの心に働いてください。今晚、ここでの時間を無駄にしないよう、思いを新たにします。この時間に、もう一度感謝します。この時間を祝福し、私たちがここにいる間、見守っていてください。イエスの御名によって祈ります。アーメン。

アーメン、アーメン。こんばんは。ようこそ。どうぞお座りください。ありがとうございます。オンラインで参加の皆さんも歓迎します。参加下さり嬉しいです。彼が嫌がるのは分かっていますが、私はこうしたいと思います。彼に拍手を送りたいと思います...フランクは？ ああ、本当ですか？ 本土から2人の兄弟が来ています。実はこの方たち、とても特別なゲストなんです。エリック・アンダーソンとフランク・ケスラーです。フランクはレイトゥ牧師の隣で、エリックは洗礼の唾がかかる列の右前にいます。神はこの兄弟を9ヶ月間、実際には8ヶ月間、用いられました。ネヘミヤの奇跡でした。彼らはここに来て、ここに住み、この建物を奇跡的に再び改装しました。だから、彼らに拍手を送りたかったのです。一拍手一奇跡と言っても、決して大げさではありません。文字通り、あらゆる意味で、絶対的な奇跡です。私たちはただ、神だけがお出来になる奇跡の数々を振り返り、記憶をたどる旅をしていました。すべての栄光を神に捧げます。早速ですが、来週の木曜日について。バド・ストーンブレイカー牧師をお迎えします。バドと私で、預言的な地平線上にあるものについて、ここでお互いに議論したいと思います。というわけで、聖書の学びは一旦お休みして、再開します。ところで、今夜は「哀歌」に入ります。ああ、よかった。その反応、とてもうれしいです。もちろん先週、エレミヤ書を終えました。本当に楽しみです。その理由は、ここですぐにわかると思います。先を読んだ人たちは、この先に何があるのかをご存じでしょうが、この書で表現されている悲しみや嘆きにもかかわらず、私たちは楽しみと祝福に満ちています。来週は、カレンダーに印をつけて、参加する予定を立ててみてはいかがでしょうか。同じ時間に7時から始めて、8時半ごろまで行います。バドと私はいくつかの難しいトピックに取り組み、いくつかの問題や起こっている出来事を取り上げます。主が私たちに語ってくださると知っています。来週の木曜日は、一緒に参加する予定を立ててみてはいかがでしょうか。

それでは、哀歌1章です。祈りましょう。宜しければご一緒に。お父さま、感謝します。主よ、私たちの感謝の気持ちを十分に表現することは不可能です。木曜日の夜に一緒に御言葉と交わりと礼拝をするこの時間を、私たちはとても感謝し、大切に思っています。主よ、私たちはこの美しい場所に来ることを楽しみにし、そのための時間を取り、ただ聖書を開き、あなたから受け取るために心と耳と目を開きます。主よ、私たちがどこにいても、あなたはいつも、私たちが聞くべきことを、正確に、完璧に、御言葉で伝えてくださいました。御言葉の箇所がどこであれ、私たちの状況に当てはまるからです。あなたの御言葉は生きています。そして今夜もそのようなものです。主よ、御言葉は生きています。今、私たちはあなたの御言葉が私たちの生活の中で、心の中で、活発になることを必要としています。どうか、あなたの御言葉によって私たちに語り、働いてください。主よ、聖霊によって私たちが集中できるように助けてください。気が散ってしまったり、違う方向に意識が行ってしまったりしないために。主よ、今夜あなたが

用意して下さっているものをすべて受け取りたいです。ですから主よ、大きな期待を持って、あなたがそうして下さるのを楽しみにしています。イエスの御名によって、アーメン。

では、本題に入る前に、この書の紹介として、参考になるであろう情報があります。まず、5章しかないのですが、実は詩なんです。葬送の挽歌とでも言うのでしょうか。これらは、エルサレムの滅亡を嘆き悲しみながら、エレミヤが書いたものです。さて、1章から4章までは、実は面白いことに、アクロスティックな書き方になっています。アクロスティックというのは、22個あるヘブライ語のアルファベットの最初の文字を使い、そのため、1章を除くすべての章に22節あります。4章には66節ありますが、これはいわばアクロスティックな手法で、ヘブライ語のアルファベット1文字ずつがその節の各セクションの始まりとなります。さて、なぜそれが重要なのでしょうか？ 3つ理由があります。

まず、このアクロスティック法は、昔も今も暗記に役立っています。これは、実はアルファベットを順番に並べることで何かを覚える方法です。

第二に、このような複雑な形式の文章を書くには、作者が聖霊によって受けたものである必要があります。このようなものをアクロスティックに表現するのは、簡単なことではありません。この詳細は、これから見ていきますが、非常に詩的です。実は写実的であり、詩的であるのと同じくらい生き生きとしているのです。

第三に、これは興味深い考えですが、ヘブライ語のアルファベットの使用は、哀悼の悲しみの完全性を象徴するものだと言えます。私たちの時代でいうところの、「AからZまでのすべて」完了です。

その象徴が、今回のポイントです。これは非常に完成度が高いです。ヘブライ語のアルファベット22文字すべてがこれらを構成しています。あまりに暗くて陰気なので、もう1回だけ挽歌という言葉を使います。挽歌ではありませんか？ だから、詩や歌と呼ぶことにします。その方がいいですね？ なるほど、説得力に欠けませんが、それでもやってみましょう。

さて、この1章で、エレミヤは警告から嘆きへと向かいます。それは、言葉遊びではありません。エレミヤ書は警告でした。「これが起こります」と。52章、40年以上、エレミヤは神の民に、何が起こるのかを警告しています。そして今、それが起こりました。やって来ました。民に荒廃と破壊を警告していたのが、今では荒廃と破壊のために嘆き悲しんでいます。ここが重要です。それは、ユダが主に対して犯した罪が原因でした。これが今夜の教訓です。だから、「自分の罪がもたらすもの」というタイトルにしました。だから、「自分の罪がもたらすもの」というタイトルにしました。私の罪が自分に、確かに他の人に、悲しいことに、そしてもっと重要なことに、主に何をもたらすか。この章を準備するとき、何度も通読しました。罪のゆえに苦しむ結果は、50以上もあることがわかりました。もっと見つかるかもしれません。実は、50個でやめました。もう耐えられなかったんです。それはちょうどいい数ですが、50を下回ることはありません。これを今夜見ていきます。聖書のページから飛び出してくるでしょう。これらは、罪が自分、他人、主にもたらすものです。これは私たちの罪のために生じる哀しみ、嘆き、悲嘆、涙です。ですから、これを進めていく中で、この強烈さを考えていくと良いでしょう。聖霊の力によって、私は最善を尽くします。腕まくりをして、1節に入りましょう。

一哀歌 1:1一

ああ、ひとり寂しく座っている。人で満ちていた都が。彼女はやもめのようになった。国々の間で力に満ちていた者、もろもろの州の女王が、苦役に服することになった。

一哀歌 1:2一

彼女は泣きながら夜を過ごす。涙が頬を伝っている。彼女が愛する者たちの中には、慰める者はだれもない。その友もみな裏切り、彼女の敵となってしまった。

かつては友人でしたが、今は、敵となってしまいました。始まっていきなり、「孤独」「涙」「苦い涙」「奴隷」これらはすべて、罪の結果です。エレミヤが書いたこの最初の数節には、弁明の言及が著しく欠けています。私なら、絶対にそうします。

「あなたは私の話を聞くべきだった。40年以上、私は伝えたのに。私はこのことをあなたに警告してきた。そう言ったじゃないか。」

皆さんも同じことをしたと思いますよ。「私が正しかった！」しかし、エレミヤは違います。自分の心の正当性を主張したり、ほくそ笑むようなことは一切ありません。エレミヤは嘆いています。その強烈さが伝わってきます。聖霊によってこの御言葉を書き記したとき、実はエジプトに連れて行かれる前に、そこに座っていたと考えられています。彼はまさに絵に描いたような詩的な表現で、自分の語っていることをそのまま表現していました。ここにはもう人がいません。ユダはかつて繁栄し、にぎやかで豊かでした。今は何もありません。国々の間で偉大でした。ああ、この国はなんと素晴らしいのだと言われていました。ユダを擬人化して、

「今の彼女を見てください。彼女はひとりぼっちです。彼女は奴隷になってしまった。彼女は激しく泣いている。」「彼女の頬を涙で濡らす」というイメージです。それだけでは十分でないとしたら、彼女の友人はもはや友人ではありません。実際、友人でないばかりか、敵になってしまいます。

一哀歌 1:3一

悩みと多くの労役の後に、ユダは捕らえ移された。彼女は諸国の中に住み、憩いを見出すことがない。追い迫る者たちはみな追いついた。彼女が苦しみのただ中にあるときに。

一哀歌 1:4一

シオンへの道は喪に服し、例祭に行く者はだれもない。その門はみな荒れ果て、その祭司たちはうめく。おとめたちは憂いに沈む。シオンが苦しんでいるのだ。

また苦いという言葉が出てきました。また見ることになります。ここである言葉を思い出しました。実は、会社員時代の世俗の世界の言葉です。

「質の悪い苦さは、価格の安い甘さの後に長く残る」という言葉がありました。そこで、それを聖書的に再構成し、応用してみました。こんな感じです。罪の結果の苦味は、罪の一時的な快樂の甘さよりも無限に長く続きます。罪は一時の楽しみです。もしそれが楽しいものでなかったら、誘惑にはならないでしょう。例えが悪いですが、私は食に関して考えます。食べ物はとても大切だからです。私は誘惑されます。実際私は、正直に言うと、今、誘惑に駆られました。もちろん、あるものが棚の上に置かれている横を通るだけで、それがあなたに語りかけてくることもあるでしょう。－（笑）－

こんな感じです。「やあ、J.D、ねえねえ、ここに戻っておいで。私を見なさい。」

お～「ねえ、さあ、ああ、どんなに美味しく気分が良くなることか。」

屈服してしまいます。そして、体重計に乗ると、苦い気持ちになるのです。「あ～、食べるんじゃなかった。」ちなみに、それはおいしい味わいよりも長続きします。ここで言いたいことはありますよ。もし私が何かの傍を通ったら、こう言います。例えに、ライ豆を使います。大丈夫ですか？ ライ豆が好きな方、神の祝福がありますように。ライ豆は神のものではないと思います。ここがポイントです。全く誘惑に負けません。ライ豆に関しては完全勝利で歩んでいます。－（笑）－

なぜなら、私はそのライ豆から何の喜びも得られないからです。だから、私には何の問題もありません。しかし問題は、罪は楽しいことです。私たちは、特に牧師として大きな間違いを犯していると思います。この点に関しては、おそらく私は誰よりも罪深いと思います。私たちは、なんとなくこのような罪のイメージを描いてしまっています。「ダメだ！う～！まずい！」ちょっと待ってください。前回チェックした時、罪はこんな感じでした。

「お～！いいね！さあ、語り合おう」そこに魅力がなければ、誘惑はありません。罪は、正直に言えば、楽しいものです。しかし、一時のことであり、長くは続きません。続くのは、いつも苦い思いです。ここでエレミヤです。その罪の結果の苦い杯を、彼はほとんど味わっているのです。エレミヤはその罪の苦さのために悲嘆に暮れています。これにもまた、下線を引きました。50で止めざるを得ませんでした。

「捕らえられた」「苦しみ」「憩いを見出さない」「苦役に服する」「祭司たちはうめく」という言葉に下線を引きました。ただただ嘆き、ため息をつき、そして苦い思いが襲ってきます。

一哀歌 1:5一

彼女に逆らう者がかしらとなり、彼女の敵が栄えている。彼女の多くの背きのゆえに、主が憂いを与えられたのだ。幼子たちも、捕らわれの身となり、逆らう者の前に出て行った。

一哀歌 1:6一

娘シオンから、そのすべての輝きが去った。彼女の首長たちは、青草を見出せない鹿のようになり、追い迫る者の前をただ力無く歩んで行った。

繰り返しますが、これが罪のもたらすものです。これが、私の罪が引き起こすものです。それによって、自分が支配されることとなります。彼女の敵が主人になったのです。彼女は今、それに支配され、その輝きを失ってしまいました。あまり深入りしたくないのですが、私の頭の中にはこんなイメージがあります。その表情は...、これはおそらく、このことを再確認する良い機会です。携挙や、私たちがこの幕屋を離れて主のもとに行くまで、私たちには常に罪があります。罪がないということはありません。しかし、キリストにあって、罪を犯すことが少なくなります。再度、言葉遊びではありません。あなたが勝利の中を歩む時、習慣的、意図的な不服従ではなく、告白された罪、赦された罪ですが、それでも罪です。だから、罪のない人生という話ではありません。勝利の中を歩んでいる人は、その表情でわかります。反対に罪の示しの重圧に押しつぶされそうになっている人がいたら、わかるはずです。彼らの表情に、あの明るさ、輝きがないことが表れています。これが罪のもたらすものです。そして、これはどうでしょう？「ただ力無く歩んで行った」罪は私たちを弱らせます。霊的に私たちを弱らせます。

一哀歌 1:7一

エルサレムは思い出す。苦しみとさすらいの日々にあって、昔から持っていた自分のすべての宝を。その民が敵の手に倒れ、だれも助ける者がいないとき、敵はその破滅を見て、あざ笑う。

一哀歌 1:8一

エルサレムは罪に罪を重ねた。そのため、汚らわしいものとなった。彼女を尊んだ者たちはみな、その裸を見て、これを卑しめる。彼女もうめいて、その背を向ける。「恥」罪は常に恥をもたらしめます。「嘲り」「誰も助ける者がいない」またもや、一人ぼっちです。この言葉もどうでしょう？「彼女は卑しくなり、裸になった」これは原語では、かなり生々しいものです。その生々しい描写に触れる必要はないでしょうが、罪のために起こる屈辱、露呈、裸、恥です。さらに酷くなります。9節。

一哀歌 1:9一

彼女の汚れは裾に付いている。…

その次に書かれていることに特に注目してください。

…彼女は自分の末路を考えない。…

ああ、つまり、彼女は本当によく考えていませんでした。なぜなら、もし彼女や私たちが最後まで、苦い結末まで考えていたら、それは流れを変えることになったかもしれないからです。ヨセフのことを考えます。それは話の中に紛れ込んでいて、ほとんど不明瞭で、そのため残念ながら見逃してしまいます。ヨセフはポティファルの妻に毎日誘惑されていたと書かれています。ところで、この人は権力者でした。権力者にはたいへい美しい妻がいます。彼らの見た目は…彼らは権力者と富裕層だからです。だから、彼女は非常に魅力的で、非常に魅惑的だったに違いありません。そうでなければ、やはり誘惑にならないからです。失礼な言い方かもしれませんが、85歳くらいの方が誘惑してきても、そこには誘惑はありません。これは問題ありません。私はここで、主人の奥さんに関して完全に勝利の中を歩んでいます。言いたいことはお分かりですね。もう先に進みましょうか？ いいえ、繰り返しますが、これは誘惑だったのです。「私と一緒に寝ましょう。」ある日、彼女はそれを仕掛けて、彼女は従業員全員を帰宅させ、残りは有給で休ませ、彼女はヨセフを独占します。そして、彼女は基本的に、ヨセフに身を投げ出し、ヨセフが上着を置いていったことからわかるように、何らかの身体的接触があったはずでした。(創世記 39:12) どの上着か分かりますね？ その上着は誤解されていますが、たくさんの色、仕切りがあり、とても重要な人たちがポケットや仕切りを持ち、色分けしていました。彼らは非常に重要で責任ある人だったからです。それが、この上着でした。彼女はどうかして上着を掴みます。ヨセフがそこから抜け出して逃げるからです。でもその前に、彼女が彼を魅惑して誘惑しているとき、ヨセフは彼女にこう言います。

「あなたの夫、私の雇い主、私の主人は、あなたが彼の妻であるために、あなた以外は私に何も差し控えません。あなたには手は出せません。」

ここからが本題です。ちなみに私たちには名前が知らされていません。それはいいことかもしれません。ポティファルの妻としか知りません。ヨセフはこう言います。「主に対して、こんなことはできません。」これが、最後まで、苦い結末を考えた人です。

「主に逆らってはできません。それは主に対してすることだからです。主人に対してはもちろんのこと、私は出来ません。」

彼はよく考えていました。ヨセフとダビデを対比してみましょう。それ自体、興味深い学びです。ダビデはよく考えませんでした。バテシェバとの罪は、ダビデの人生を永遠に変えることになりました。

(IIサムエル 11)

彼の人生はもう二度と同じではありません。彼は、これがどのように終わるか、これが最後にはどんな運命になるのか、考えませんでした。私たちは、少し立ち止まってみるべきだと思います。この点については、聖霊が私たちの心に本当に語りかけてくださいますように。熱くなっているときに、立ち止まって考えてください。「待てよ。これが妻にどう影響するのか？」「これが息子、娘、子ども達にどう影響するのか？」「私の証言はどうか？ 私のミニストリーは？」もっと重要なのは、「神の御心にどう影響するのだろうか？」「これは神の心を悲しませることになる。これは神の心を傷つけることになる。結局のところ、私は神に対して罪を犯しているのだから。」そういうことを考えたとき、神は駆けつけてくださってあなたと出会い、それを尊重され、あなたを力づけてくださいます。なぜなら、その瞬間にやっていることは、その罪の結果を考慮に入れているからです。罪の一瞬のはかない楽しみに勝るものを。そうですね、1時

間くらいは楽しめそうです。やりすぎでしたか？ そんなイメージを描くつもりはなかったんですが、「明日の朝はどうなるか？ 明日の夜はどうなるか？ 来週はどうなるか？」よく考えてみてください。考えてください。しばらく考えてみましょう。思うのですが…自分の人生の自分自身のことを話しますが、もし私が、その意味するところや、自分が何をしようとしているのか、前もってよく考えていれば、何度も、その場でやめていたことでしょう。「いや、その価値はない。その価値はない。」ダビデはどうだったのだろうと…いえ、私たちは詩編で知っています。もし、もう一度彼がやり直すとしたら。あの夜、一晩だけで、一晩、間違った場所に、間違った時間にいました。そこにいるべきではなく、戦場にいるべきだったのです。しかし、ダビデはそこにいませんでした。そこで、誘惑がやって来ます。誘惑されることは罪ではありません。ヤコブはそのことを明確に示しています。私たちが誘惑され、それに屈するとき、この罪に屈するとき、その結果が生じます。その時の映像を早送りしてみてください。映像の終わりはどのような感じですか？ その終わりを見る時…頭の中で見ているのが辛いくらいに再生させてください。そのような効果が必要です。だって、あの終わり方を見たら、「まさか」と思うでしょう。

「ありえない。私の神にそんなことできるわけがない。妻にそんなこと絶対にできない。彼女を押しつぶすことになる。それは彼女を打ちのめすだろう。」

自分自身や主との関係にどう影響するかは言うまでもありません。そのことはこの後すぐに見ていきます。興味深いのは、

一哀歌 1:9一

…彼女は自分の末路を考えない。それで、“驚くほど”落ちぶれて…

新欽定訳では、興味深い言葉が選ばれています。私たちは、この言葉「awesome/すごい」を枠にはめがちです。「すごい！」「おお、それはすごい！」しかし、その言葉の本当の意味を考えたことがあるでしょうか。ただただ畏敬の念を抱くことです。そのあまりの恐ろしさに、ただただ畏怖の念を抱くのです。ただただ…これはすごいことで、この崩壊はすべて、彼女がその結果を考えなかったからです。

…それで、驚くほど落ちぶれて、だれも彼女を慰めない。「主よ、私の苦しみを顧みてください。敵が勝ち誇っています。」

一哀歌 1:10一

敵は、彼女が宝としているものすべてにその手を伸ばした。諸国の民がその聖所に入るのを彼女は見た。あなたの集いに加わってはならないと、あなたが命じた者たちが。

一哀歌 1:11一

彼女の民はみなうめき、食べ物を探している。気力を取り戻そうとして、自分の宝を食物に換えている。「主よ、よく見てください。私は卑しい女になりました。」

分かりましたか？ これが、罪のなすことです。犠牲を伴います。このことを語っている箴言があります。その罪がいかに人をパンにまで貶めてしまうか。罪は人の富と財産を減らすでしょう。ギャンブルについて考えます。脳内物質の観点から神経学的に最も強力な中毒の一つです。それほど強力なギャンブル、ギャンブル依存症です。ポルノ依存症に似ています。神経学的にとっても強力な、人間の脳の中の経路です。そのために使われる金額、そのために失われる金額、そのためにかかる金額を考えてみてください。これはそのことを指しています。罪の結果です。罪は金銭的に非常に大きな代償となります。

一哀歌 1:12一

あなたがたには関係がないのか。道行くすべての人よ、よく見よ。このような苦痛がほかにあるのか。私

が被り…

自分が招いたのです。

…主の燃える怒りの日に主が私を悩ませたような苦痛が。

私は自分で招いたことです。そして今、そのために、主は、私を苦しめる以外の選択肢はあられません。楽しんでおられるのではありません。激しい怒りのためにそうせざるを得ないからです。

—哀歌 1:13—

主はいと高き所から私の骨の中に火を送り込まれた。私の足もとに網を張り、私が背を向けるようにされた。私を荒れすさんだ女、終日、病んでいる女とされた。

これは、主の重い御手です。これは聖霊の燃えるような罪の示しです。罪の非難ではなく、示しです。それが、主なのか敵なのかの判断基準になります。なぜなら、敵は罪を非難します。罪の非難は、私たちをさらに主から遠ざけてしまいます。一方、聖霊は罪を示され、罪の示しは主に近づけ、私たちに赦しときよめをもたらします。しかし、これはその必要な熱です。神は熱を上げられます。その火の温度を上げ、骨の中まで火を通されます。また、ダビデが1年間その状態で、

「私の骨は干からびた」と言ったことを思い出します。(詩編 32:3)

「私は自分の罪のために、ただ内面が蝕まれていた。」彼はそれを隠そうとしたからです。これは重要です。私たちがこの状態で、十字架のもとに行くよりも長く生きる必要はありません。敵はそれを知っているからこそ、できるだけ長くあなたを十字架から遠ざけようとしています。なぜなら、敵があなたを十字架から遠ざけることができる限り、あなたを罪の非難の下に押しつぶし続けることができるからです。

—ローマ 8:1—

こういうわけで、今や、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。

しかし、敵は赦しが待っていることを知っています。

—Iヨハネ 1:9—

もし私たちが自分の罪を告白するなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、私たちをすべての不義からきよめてくださいます。

ここが重要です。これが本当に重要な理由です。これを逃さないでください。赦しは、瞬時です。敵があなたに嘘をついて、そうでないと言わせないように。敵はそれが本当に得意です。私たちがそれを信じ、受け入れてしまいます。ですから、私たちが罪を犯したとき、ここで主は、こう言っておられます。

「わたしはその代価を支払った。わたしのもとに来なさい。」

できるだけ早く十字架のもとに行ってください。

敵はここで、「そう急がずに。どうなんだろう。これはかなり酷かった。この件に関しては、主に2日ほど時間を与える必要があるかもしれない。今回は本当に酷かった。2~3日、おとなしくしていればいい。冷静になってから、徐々に慣らしていくんだ。急ぐことはない。」

ああ、それはあなたが生きる必要のない罪の非難の中で生きる2日間です。十字架のもとに行ってください。即座に、あなたの罪は赦されます。今度は、罪の結果です。神は憐み深いお方です。神は私たちの罪に見合った対価を払われないことがあります。それは神の憐み、神の恵みです。

確かに、罪の溢れるところには、それ以上に恵みが溢れていました。(ローマ 5:20)

しかし、時にはその結果が厳しいものであることも必要です。なぜなら、そうすることでしか、いわば「あの味」を忘れられないからです。自分の罪の結果のその苦い杯からそれを味わうとき、それがあなた

に何かをもたらすことを主は知っておられます。あなたは赦されます。しかし、もう二度と味わいたくないと思うほどに、この味を本当に知る必要があります。考えてみると、私たちはここで...だいたい半分くらいですが、ええ、半分より少し進んでいます。皆さん調子はどうですか？大丈夫ですか？ まあ、悪くはないですね。ええ、悪くはないです。実は昨日、このことをなんとなく考えていたんです。私は今までに何度か、主が私を苦しめられたこのような時のことを神に感謝するようになりました。私は実際に、この苦難を神に感謝しました。そのように苦しんでいなければ、道を踏み外したかもしれません。これは詩篇 119 篇のダビデの言葉です。二度、彼はこう言っています。

「苦しみにあったことは良いことでした。なぜなら、今は、私はあなたの御言葉を守り、あなたの御言葉、あなたのおきてに耳を傾けるからです。(詩編 119:7)

それは私にとって良いことでした。(ダビデは二度こう言います) 私が迷い出たので、苦しみにあいました。しかし今は、正しい道を守っています。」(詩編 119:67)

これは良い苦難でした。これは良い経験であり、懲らしめであり、このような結果を味わったことは、良いことでした。

一哀歌 1:14-

私の背きのくびきは重く、主の手で、私に結びつけられ、私の首の上に載せられた。主は私の力をくじき、私を渡された。私が立ち向かえない者の手に。

ここで推測されるのは、以前は主の力と強さによって、立ち向かえることができたということです。

一哀歌 1:15-

主は、私のうちの強者たちをみな追い払われた。私を標的として「例祭」を呼びかけ、私の若い男たちを滅ぼされた。主は、ぶどう踏みをするように、おとめ、娘ユダを踏みつぶされた。

一哀歌 1:16-

これらのことで、私は泣いている。私の目、この目から涙があふれる。元気づけ、慰めてくれる者が、私から遠く離れたからだ。…

ああ、「遠く離れる」私が罪を犯すと、主との親密さが断ち切られます。例えば、あなたは倒れ、失敗し、主に対して罪を犯します。いつも赦しがあります。あなたが主のもとに来て、罪を告白すれば、主は忠実で正しい方ですから...しかし、その関係に打撃を与えてしまいました。あの時の親密さ、あの時の主への確信に。これは特に、霊的な戦いの文脈で現れます。繰り返しますが、敵はこれを知っています。彼は動力源を断ち切ります。祈りの生活に打撃を与えます。以前は、大胆に、傲慢にではなく、大胆に、必要な時に主の恵みの御座に来ることができたのですが、そのような親密さに距離ができ、断ち切られてしまったからです。主は私たちを憐れみ、必要な時に助けてくださると、ヘブル人への手紙の著者は述べています。(ヘブル 4:16)

でも、どこでそれが襲ってくるか.....敵はそれを突いてきますよね？ だから、あなたは主のもとに行きながら、あなたの祈りの生活はかつてのような力強さを持たないのです。あなたは、かつて持っていたような自信を失っています。なぜなら、あなたは自分の義ではなく、純粋さと正義と勝利の中に歩んでいたからです。しかし、そのように主の御前にまっすぐ歩んでいると、自信が湧いてくるのです。親密さが出てきます。そして逆に、私たちの生活の中にある罪は、ただ私たちを主から遠ざけてしまいます。距離が生まれるのです。有名な言葉があります。聞いたことがあると思います。

「罪はあなたを聖書から遠ざけ、聖書はあなたを罪から遠ざける」

本当にそうです。なぜなら、あなたが罪を犯すと、敵がすぐそこにいて、

「おい、これはひどい、お前は台無しにした」と言うからです。御言葉を読もうとしても、以前とは違います。打撃を受けました。あなたが祈ろうとするとき、その祈りはあなたにとってどんな効果があるのでしょうか？ 自分を例に出しましょう。皆さんのために犠牲になりましょう。

渋滞中のことです。以前にも告白しましたが、私は勝利の中を歩んでいます。神は長年にわたり、私の人生に深い働きをしてくださっています。しかし、それでもまだ、私は渋滞中に罪を犯します。娘も一緒に車に乗っていると、そこで、誰かが割り込んできます。いや、意図的に。意図的なんです。私の神聖さは、私から逃げてしまいました。私は神の御言葉を教えるために教会へ行く途中です。それを私がしたら？

「あなたは何をしたんですか？」まあ、やったことをすべて話すつもりはありませんが。－（笑）－つまり、あなたがしていることを私もしているんです。私は、「おまえは割り込んだ！」と、必ず相手に知らせます。それは、無数の異なる方法で行うことができます。もし可能なら、反対車線に乗り込んで、スピードを落として、まず最初に、それが誰なのか確認します。それで、相手を見て、あなたが割り込んだことを知っている相手には知らせるんです。ちょっと、笑わないでください。皆さんもやったことありますよね？ そして、スピードをあげて走り去ります。そこで相手に示しました。そして、教会に車を停めます。（笑顔で）その後すぐに、その人が教会に車を停めるのです。ちなみにこれは、私が何度も見る悪夢です。以前に話しましたよね？ 私の繰り返し見る悪夢は、本当にこんなことをして、私は教会に車を止め、（笑顔で）「主を称えます！」すると、その人が入って来ます。教会を訪ねてきて、こう言います。「ああ、あなたはこの教会に通ってるの？」「えっと...実は私はこの教会の牧師で...」「そうですか、主を称えます。」

さて、その教えはどうなるのでしょうか？ 始まりの祈りはどうなるのでしょうか？

「天の父よ、私は哀れな者です。私は罪人です！」つまり、同じではありません。打撃を受けています。では、分かりましたか？ 他に例えが必要ですか？

「お願いだからやめて、解放してください」と言っておられるので、そうします。

—哀歌 1:16—

…私から遠く離れたからだ。敵に圧倒されて、私の子らは啞然とする。

—哀歌 1:17—

シオンが両手を差し出しても、これを慰める者はいない。主は、ヤコブの周囲の者たちが彼の敵となるように命じられた。エルサレムは彼らの間で汚らわしいものとなった。

—哀歌 1:18—

主は正しい方である。しかし、私は主の命令に逆らった。すべての国々の民よ、聞け。私の苦痛を見よ。若い女たちも、若い男たちも、捕らわれの身となって行った。

—哀歌 1:19—

私は、私を愛する者たちを呼んだが、（聞いてください）彼らは私を欺いた。…

罪は欺くものです。

…私の祭司も長老たちも、都の中で息絶えた。気力を取り戻そうとして、食物を探していたときに。

—哀歌 1:20—

「主よ、ご覧ください。私は苦しみの中にあり、はらわたはかき回され、私の心は私のうちで打ちのめされています。私が逆らい続けたからです。外では剣が子を奪い、家の中は死のようです。」

これは究極です。罪の報酬は死です。(ローマ 6:23)

ここでの表現に注目してください。非常に詩的です。

「私の魂は悩んでいます(はらわたはかき回され)」「私の心は私のうちで打ちのめされています。」

ただ、私たちの心には聖なる不安があります。それは良いものです。こんな風に言われていたように思います。「時には嫌な思いをするのもいいことだ」あなたは今、心の中がざわざわして落ち着かず、おかしいと気づいて悩み、心が騒いでいます。「恐れ」これはどうですか? 「不安」罪のために、それが入り込みます。恐れ、心配、それ自体が罪です。今、心が悩んでいます。「私の心は私のうちで打ちのめされています。」そして、あなたはそれを何度も何度も繰り返すのです。それは苦痛をもたらします。

一哀歌 1:21-

私のうめきを聞いても、慰めてくれる者はだれもいません。敵はみな、私のわざわいを聞いて喜びました。あなたがそうなされたからです。…

そのために、彼らは喜んでいて、神が私を懲らしめられるのを、彼らはすごく喜んでいて、私が惨めな思いをしているのを、彼らはとても喜んでいて、私に起きたことに彼らはとても喜んでいて、ありがとうございます。聞いてください。

…あなたが告げられた日を来させてください。(主よ、来させてください。) 彼らも私と同じようになるために。

私はこれが好きです。こう祈ったことがあります。皆さんは?

「主よ、私にされたように、彼らにもしてください。だって、あなたが私にされていることで、彼らはあまりにも楽しすぎています。だから彼らにもしてください。」

つまり、結局のところ「同病相憐れむ」と言われている通りです。最後の節、22節です。

一哀歌 1:22-

彼らの悪のすべてが、御前に出されますように。そして彼らに報いてください。あなたが私のすべての背きに対して報い返されたように。私のうめきは大きく、私の心は弱っています。」

ああ、元気よく終わりたいものです。しかし、主が今夜ここで私たちに見せられたいのは、そういうことではありません。最後に、罪に関する言葉を引用して終わりたいと思います。それを一緒にやり遂げたいと思います。罪は禁じられているから悪いではありません。罪は悪いことだから禁じられているのです。言い変えると、神がこう言っておられるのではありません。

「汝、罪を犯してはならない! それは禁じられているからだ! わたしが神であり、わたしがそう言ったからだ!」

違います。もっとこんな感じです。

「わたしはあなたにこれをして欲しくない。あなたのことを愛しているからです。あなたの罪の結果がもたらす苦しみを、あなたには味わって欲しくないのです。」

十戒について話しましょう。ある著者が『優しい戒め』というタイトルをつけたのが、とても気に入っています。そうすると、なんだか様相が変わってきますよね? なぜなら、十戒は、「汝、これをしてはならない! 汝、これをしてはならない! ...」

違います。むしろ、優しく、愛に満ちておられる天の父がこう言っておられます。

「わたし以外に他の神々があってはならない。それらの神々はあなたのためにならず、全く神ではないからです。わたしがあなたの神です。わたしはあなたを本当に愛しています。あなたが神でもない他の

神々を礼拝するのを見るのは耐えられません。なぜなら、あなたが必要とする日、神々はあなたを助けな
いからです。わたしは助けます。あなたには、わたし以外に他の神々があってはならない。」

(十戒) 後半の5つは、前半の5つもですが、非常に興味深い類型です。水平と垂直がありますね。最
初の5つは、私たちとの関係です。

「心、たましい、思い、力を尽くして神を愛しなさい。」それが垂直方向です。後半の5つは、「あなたの
隣人を愛しなさい」それは横の関係、水平方向です。そこに律法の総括があり、戒め、律法の成就があり
ます。なぜなら、もしあなたがそのように神を愛しているならば、最初の5つを身につけているからで
す。もしあなたが隣人をそのように愛しているなら、後半の5つを身につけているからです。十字架の
形です。律法を成就した者。律法を成就した唯一の者。私がこう言ったらどうですか？ よく聞いてくだ
さい。もし私が、戒めは私たちが守るために与えられたのではないと言ったらどうでしょう？ 十戒の
唯一の理由は、私たちに私たちが示すためでした。神から見た私たちが示すためです。完璧な鏡で私たち
が罪びとであることを示すためです。なぜなら、私が罪を犯したことを知ったとき、聖霊が家庭教師や、
学校の先生のようにやって来られ、私を十字架に導き、その律法を成就してくださった方のもとに連れ
て行ってくださるからです。ある種のきっかけです。しかし、この十戒の背後にある心についてお話しし
ましょう。愛に満ちた優しい天の父がこう言われます。

「姦淫してはならない。わたしが神であり、わたしがそう言ったからではありません。違います。あなた
は姦淫してはならない。なぜなら姦淫すれば、自分にも他人にも、言いようのない悲しみと嘆きをもたら
すことになるからです。生活を破壊し、人生を破壊することになります。」

「人殺し (murder) をしてはならない」 kill/殺すではありません。人殺しと殺しは違います。

「人殺しをしてはならない。なぜなら、もしあなたが人殺しをするなら、一生追われることになるからで
す。」 「貪ってはならない」

聞いてください。これは本当に良い例です。これは、愛する天の父からのことばです。

「隣人が持っているものを欲しがってはならない。なぜなら、わたしがあなたを造り、その仕組みを知っ
ているからです。そんなことをしたら、内側から蝕まれてしまいます。貪欲と苦みが根を張り、あなたを
汚し、あなたを滅ぼすでしょう。わたしはあなたを愛していて、あなたに警告します。これをしてはなら
ない。だから、罪は禁じられているのです。罪はあなたにとって悪いものだからです。あなたを愛してい
ます。だから、あなたにこんなことして欲しくありません。」

自分の子どもと同じように、警告し、保護し、指示し、指導し、主を恐れ戒めながら育て、少なくともそ
う努めます。最近は何...、ああ、気にしないでください。すごく大変ですよ？ 子育ては本当に大変です
よね？ 私はビジネスをし、教会の牧師の経験もありますが、それらを合わせても、子育てほど大変なも
のではありません。弱虫には無理です。あなたはここで、子どもをしつけようとしていて、類似点がたく
さんあります。あなたは子どもに「ダメ。それは出来ないよ」と言います。「どうして?!」子どもはあな
たと争い、戦い、そして、「あなたは私を愛していない!」「いいえ、それはあなたを愛しているからです。
わたしはあなたを守ろうとしています。もしあなたがそんなことをしに行ったら、あなたに害を与え、傷
つけることになるからです。わたしはあなたを愛しています。だから禁じるのです。これはあなたにとっ
て悪いからです。」

それが罪というものです。もう一つ。これで終わります。いつも類似点を考えますが、数え切れないほど
たくさんあります。私自身、子どもたちとの生活の中で、それを日常的に目にしています。ある日のこと

です。このことは一生忘れないでしょう。これは何度もありました。あなたは自分の子どもを愛しています。ある時、祈りながら、ただただ”嘆いていた”ことを覚えています。この言葉はかっこいいですから。「文句を言う」より、「嘆く」ほうがもっと霊的に聞こえますね？ 実は、私は主に対して文句や、嘆きを言っていました。

「ああ、私の子どもたちは、私を本当にひどく傷つけることができます。」私が彼らを本当に愛しているからです。子どもを持つ前は、子育てのことは何でも知っていますよね？ すべての本を読んで、「ああ、わかった」と。そして、最初の子を授かると、「子育てのことは何もわからない」みたいな感じです。私は何を考えていたのだろうか？ 本を捨て、燃やし、焚書会をします。それらは読まないでください。ところで、それらの育児書ですが、こんなことを言うつもりはなかったのですが、でも、言います。

ある人は「いや、こうしてください」と言い、別の人は、「そんなことしてはいけません。こうするんです。」と言います。あなたは「えっ？」と。両方を試しても、どちらもうまくいかず、さらに悪化してしまうのです。彼らのことは忘れてください。あなたは子ども達を本当に愛しています。もし、そこまで愛していなければ、こんなに傷つくことはないでしょう。そうですね？

「主よ、私が子どもを持つ前は、子どもが私をこんなに傷つけるなんて思いもしませんでした。こんなに痛いとかわかっていたら、子どもを作らなかつたかもしれないと思うほどです。私は彼らを愛していて、... ああ...痛い！」

そして、主の応答はこうです。「わたしの世界へようこそ、息子よ。」う～...「あなたはいつもわたしにそうしています。あなたはいつもわたしを傷つけています。わたしはあなたを本当に愛しているからです。もしわたしが愛していなかったら、『いや、どうでもいい。もしあなたがそうしても、わたしはあなたを知らないし、気にしない』と。」それは恐ろしいです。間違えました。

「私はあなたを愛していない。好きなようにすればいい。」傷つくことはありません。でも、もしあなたが私の子どもなら、私はあなたをとっても愛していて、あなたは私をひどく傷つけることができます。神の御心はどれほどなのでしょう。私たちが神に対して罪を犯すとき、これが大変重要なポイントになると思います。霊的成熟は、あなたがこの場所に来ることで...これは主を畏れるということで、神の心を悲しませ、傷つけるようなことをするのを恐れるのです。それが主への恐れです。神の御心に傷と悲しみをもたらすと知っている悪を憎むことです。

それは主を畏れることであり、知恵の始まりです。(箴言 9:10)

キリストのうちに成長し、恵みを受け、成熟すると、ヨセフのように、この境地に至るのです。

「いや、無理です。神に対してそんなことは出来ません。それは本当に神の御心を傷つけることになります。」

私の子どもたち、ちょうど今日、長男が、実は...ああ、この子は本当に感謝する子です。感謝する姿勢っありますよね、親御さん。裏返しでしょう。姿勢は良くても、感謝の気持ちが無いというのはどうでしょう？

「ああ、そうか？ 本当に？ 感謝しないのか？ この甘やかされて、偉そうに...」

空欄を埋めてください。しかし、子どもが感謝するとき、お～...！「パパ、ありがとう。」お～！「他に欲しいものは？」「私の王国の半分を与えよう」そうですね？ 神の御心はどれほどでしょうか。私たちは、神の御心を傷つけることもできますが、神の御心を祝福することもできます。

もう一つと言いましたが、これが最後の一つです。質問です。

神が必ずしも持っていないもので、私たちが神に捧げることができるものは何でしょうか？ 私たちはこう言います。「ねえ、すべて持っている人に何をあげたらいいか分からない。」神はすべてを持っておられます。神が持っておられないもので、私は何を捧げればいいのでしょうか？ あなたの従順です。神を祝福するために、あなたが捧げることができるものです。祈りの中で、

「主よ、私を祝福し、これを祝福し、あれを祝福してください...」

あなたは今までに立ち止まって、

「主よ、私はあなたを祝福したいのです」と言ったことがありますか？

主を祝福しましょう。わがたましいよ。「主よ、私はあなたを祝福する者になりたいのです。私は、あなたの心を祝福し、すべてに感謝するような、そんな子どもになりたいです。他のクリスチャンのように、権利を主張し甘やかされた子どもにはなりたくありません...」

いや、これはまずいですね。でも、わかりますね？ 私はそんな子どもになりたいです。そんな神の子でありたいです。私は神を祝福し、神の御心を祝福したいです。

よし、これで終わります。カポノ、上がって来て下さい。皆さんお立ちください。祈りましょう。このようなスムーズで途切れのない締めくくりは素晴らしいと思いませんか？ 皆さんが締めくくりが好きなのは分かっていますが...

主を称えます。天のお父さま、感謝します。これは大変なものですが、良いものです、主よ。それは、私たちが心の中で深く感じなければならぬことです。これは非常に心からの嘆きと哀しみであり、ああ、エレミヤにとって、そして主よ、あなたにとって、どんなに辛いことであつたでしょうか。あなたはユダにこのようなことが起こるのを喜ばれません。主は私たちの人生において、ヘブル人への手紙の著者が言うように、私たちは、あなたの懲らしめを軽んじていることが多いのです。

主よ、私たちは正しい道に戻るために、あなたに懲らしめられることが必要な時があります。主よ、あなたの御言葉の中のこの生き生きとした、詩的な箇所をありがとうございます。この書に感謝します。

あと4章あり、そのうちの1章はこれより長くなります。主よ、この中に私たちへのことばがあることを私たちは知っています。今夜、この場所から、私たちの時間から、それを持ち帰ることができるように祈ります。ですから、私たちのためにそうなさってください。イエスの御名によって祈ります、アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7